

2018年1月のブルーベリー農園
2018年1月は例年になく寒い月
だった。ブルーベリー農園は東広
島市豊栄町にあるが隣の福富町か
らさらに高い町で農園のある場所
は標高約400mある。この時期外

で作業をしていると午後3時頃から急に冷気がやってくる。
夏の安芸の郷へのブルーベリーの納品に備えて冬から春にかけては約
1000本のブルーベリー剪定が欠かせない。一番最初に里山に植えたのが
2000年で、幸い枯れなかったので翌年も田んぼに転作で植えて今に至っ
ている。



植えてから17年から18年たっているのだからこれらの
木は太いのだが間引いたり、品種によっては1本~2
本間隔で全部切って更新をすることを基本方針にし
て作業を始めている。
正月明けからばさばさ切っていく。1月6日(土)

って井戸の水が出ないので、地元の電気屋さんに来て
もらおう。今日はテストもできないのでポンプの作
動チェックだけして後日点検することになった。マ
イナス16度まで下がる低温被害で100件を超える修
理依頼が来ていて、30~40年前に一度低温被害があ
って以来の出来事だそうだ。
電気屋さんが帰ったあとで風呂の蛇口が裂けてしま
ったのも発見したが、打つ手はなくとりあえずバケ
ツで受けておく。後日修理に来ていただきポンプに
異常がないことを確認して取り換えてもらった。



雑木の伐採が続いている。山の東側のブルーベリー
農園で、ブルーベリーの木に覆いかぶさっているスギ
やヒノキの枝を切る。1月14日(日)



切ったたまった枝を野焼きする。1月7日(日)



伐採の作業の場所から「とんど」の煙が見える。豊
栄のあちこちで「とんど」が午後から行われてい
て、手を休めて見ていると火が入り煙が一斉にのぼ
る。
農園の松飾も別の場所の「とんど」で焼いてもら



1月14日(日)に農園に来てみると室内の蛇口も凍

ので、持って行く途中、車でその場所に行く近所の方に出会い「持って行っていくよ」と声をかけて頂いたので渡して、焼くことができた。



正月明けは鳥の鳴き声も聞こえずひっそりとしていたが、中旬になってから野鳥がやってきて（写真中央上に一羽）農園の枝枝に飛び移ったり、ムラサキシキブの実をついばんだりしている。シジュウガラ、ヤマガラも見える。そのほかの野鳥もいたが名前は分からない。下旬にはヒヨドリも帰ってきて、にぎやかになってきた。

今冬もキジが農園に住みついたようだ。撮影はできなかったが1月に3回姿を確認した。昨年が続いてきてくれるのでちょっとうれしい。1月21日（日）

1月27、28日と行事が入っているため農園に行けない。27日（土）の午前中に行われた安芸の郷のみみずく家族会の親睦会が1時過ぎに終わったのでその足で午後から、農園の見回りに行く。



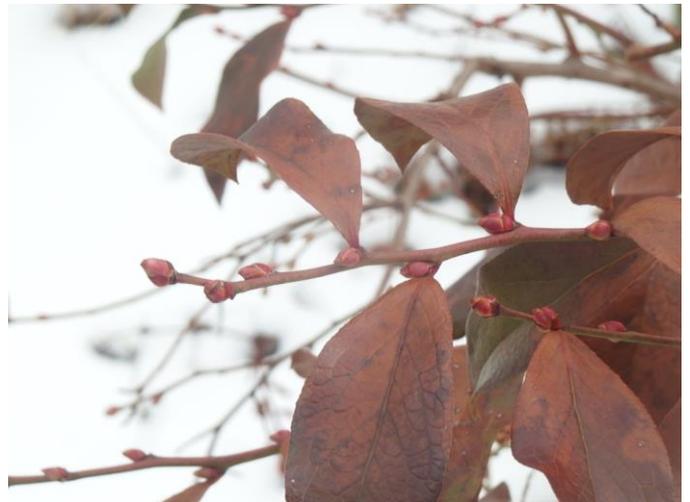
① 電気柵の点検。イノシシやシカが入ってこないように電気柵を設置しているが乾電池の能力が少なくなったので赤いランプがついている。取り換えて帰る。暗くなると電源が入る仕組みになっている。今の季節は夜が長いので電池の消耗も早い。



② 家の周囲の点検。軒先につららがびっしり。危ないので長い柄の箒で落とした。ナンテンはまだしっかり実をつけている。



③ 庭のモクレンの花芽



④ 強い寒波で落葉していないブルーベリーの葉は変色しているが、花芽はびくともしていない。ラビットアイ系ウッドワード。

2018年1月31日
社会福祉法人安芸の郷 理事長 遊川和良